

ガラクタを捨てれば、自分が見える

永田 円了

『私たちの人生のあらゆる瞬間、あらゆる知的、感情的、創造的、肉体的活動、あるいは休息さえも、その全てが記録されている』

— キャロリン・メイス著「7つのチャクラ」より



記録は全てエネルギーとして蓄積される
あなたの過去の記録は、果たして

- エネルギーを与えてくれるものでしょうか(+エネルギー)、それとも、
- エネルギーを奪っているものでしょうか (-エネルギー)

悲しい出来事をたくさん経験した人が、多くのエネルギーを奪われているのでしょうか？

いいえ、違います。

「未完の仕事」(unfinished business)を多く抱えている人が、多くのエネルギーを失っているのです。未完の仕事とは

- どうしてもあの人を許すことのできないという思い
- 自分は犠牲者であるという思い

「未完の仕事」をやり通すとは

- 許せないと思っている人を許す
- 自分自身も許す、もはやいらなくなったものを、手放す



事例:王女メディア/絶対に許さない

事例:大平光代、親を許す

事例:映画「普通の人々」より

事例:サバンの事例

事例:高島忠夫/美空ひばり

事例:映画「マグノリア」絶対許せない父親を許す

事例:映画「ハンニバル」よりFBI女性警部のエネルギー



「ガラクタ捨てれば、自分が見える」

カレン・キングストーン著 小学館



魂をきれいにする

- 様々な「ガラクタ」を整理して行くことによって、私たちが元々持って生まれた人生の目的が再び見えてくる
- 「ガラクタ」をきれいにしていくことで、私たちが意思を妨げようとする障害を取り除き、「大いなる自己/Higher Self」に近づく

コーチャビリティを高めて出かけていく